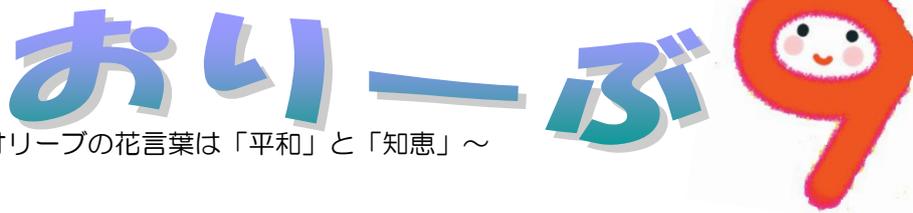


平和推進ニュース 号外2



～オリーブの花言葉は「平和」と「知恵」～

2024年12月13日

発行：生協労連

TEL 03-3408-0067

URT <http://cwu.jp/>

ノーベル平和賞授賞式

日本被団協 田中熙巳さんが講演

ノルウェーのオスロ市庁舎で12月10日、ノーベル平和賞が日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）に授与されました。代表委員の田中熙巳（てるみ）さん（92）がノーベル平和賞授賞式で演説をしました。

抜粋：

この運動は「核のタブー」の形成に大きな役割を果たしたことは間違いないでしょう。しかし、今日、依然として1万2千発の核弾頭が地球上に存在



し、4千発が即座に発射可能に配備がされているなかで、ウクライナ戦争における核超大国のロシアによる核の威嚇、また、パレスチナ自治区ガザ地区に対しイスラエルが執拗（しつよう）な攻撃を続ける中で核兵器の使用を口にする閣僚が現れるなど、民の犠牲に加えて「核のタブー」が壊されようとしていることに限りなくやささと憤りを覚えます。

自らの被爆体験を語るとともに、核兵器の保有と使用を前提とする核抑止論ではなく、核兵器は一発たりとも持つてはいけないというのが原爆被害者の心からの願いであることを訴えました。

ノーベル平和賞の受賞は、核兵器禁止条約に背を向ける日本政府へのメッセージでもあるのではないのでしょうか。わたしたちは、さらに運動を広げて、日本政府に「核兵器禁止条約に批准・署名」を求めていきましょう。来年は、被爆80年の節目です。署名にもとりくみ、核兵器のない世界を実現するために声を上げ続けましょう。オンライン署名はこちらから

⇒

